



介助犬を理解し、介助犬を受け入れる街づくりを！
 第59回「市長とランチミーティング」は12月17日(木)に「介助犬がいる石垣島への会」の皆さんと行われました。

中山市長 今日では介助犬について理解を深め、石垣市としてどう協力できるかを皆さんと一緒に考える場となれば良いと思っています。

遠藤訓練士 石垣市内で新開秀雄さんとオメガ(介助犬)が沖縄県初の介助犬誕生に向けて取り組んでいます。そこで、介助犬とはどういう犬なのか知っていただけて理解を深めて頂ければと思います。

新開氏 介助犬県内第1号という事で多方面から注目され、オメガが来てくれたおかげでこの様な機会に巡り合うことができ、介助犬について広く知ってもらえる事ができるので、私以外の障がいを持った方々にも良い暮らしができるきっかけになればと思っています。

高柳 日本介助犬事務局長 現在、日本では補助犬法につ

れます。安心して家の中で生活できる、安心して仕事ができる、安心して一人で外出できるといった、もっとチャレンジができるような助けをするのが介助犬の目的です。

遠藤訓練士 数が少ないがゆえに知られていない部分が大きいので、興味をもったただくことで認知度が広がっていくものだと思います。

新開氏 私が介助犬の事を知ったのが2年半ほど前になります。当時沖縄本島の本部町に住んでいた時に那覇でのイベントに参加して介助犬を知りました。そこで、介助犬が落ちたものを拾ったり、指示通りに色んな事が出来る事に驚きました。その以前に色々怖い思いを生活の中で経験していて、たとえば台風の時に停電になって、暗い中で転倒してしまい動けなくなつた経験があり、この時誰かに連絡が取れればというように思いました。幸いにも時間をかけて一人で難を逃れることができたが、現実的

いてほとんど知られていないというのが現状で、全国的に見ても同伴拒否をされる事が多く、47都道府県で認定介助犬がないところが半数、沖縄もゼロという状況です。

新開さんがこれからオメガと生活する中で、転倒や急な体調不良などの緊急事態が起こった時の不安を取り除く事はオメガはものすごく貢献できると思います。ただ、実際に活動する中で介助犬同伴での入店を拒否されたりすると、オメガと一緒に生活する事での弊害が出てしまいます。補助犬法という法律は認定を受けた新開さんがオメガの世話と責任は全て負い、人には迷惑をかけないという事になっています。皆さんにそれを知って頂きたいです。もし、受け入れてくれなければ、オメガがいることで新開さんが行ける場所が少なくなってしまうという結果に繋がります。

これから自分の病気が進行していく事が分かっています。なので、今できる事も今後できなくなることが多くなるといふ時に、介助犬がいてくれたらという思いが芽生え、自分には介助犬が必要だと考えました。

遠藤訓練士 介助犬認定を受けるまでは訓練犬という位置づけです。認定を受けなければ法律上はお店や様々な施設で受入ができないような場が多く、ユーザーがお願いをすることが多く活動の幅が狭くなります。今回トレーナーとオメガが石垣に入るにあたり移動手段が飛行機しかありませんでした。通常、飛行機では訓練犬はペットと同じく貨物室での移動となり、オメガにどのような影響を及ぼすのか非常に不安に思っていました。しかし、日本航空さんの全面協力を頂き、キャビンエリアと一緒に移動させていただき、異例の素晴らしく温かい対応をして頂きました。やはり、これからユーザーと介助犬が石垣市で暮らしてい

石垣市として補助犬ユーザーがどこにでもいける環境づくりに取り組んで頂きたいと思っておりますし、私たちも全面的に協力していきたいと考えています。石垣市が他の自治体のモデルとなってくれるような展開になると嬉しいですね。

遠藤訓練士 まず、介助犬とはどういう犬かというところ、よく盲導犬と間違われることがあり、盲導犬は全国で千頭近くいますが、それに対して介助犬は74頭しかおらず圧倒的に認知度が低い犬たちがゆえに一緒にたにされてしまう事も多くあります。オメガは今石垣市で誕生する県内初の介助犬(聴導犬・盲導犬も含め初)となります。厳密にはまだ訓練犬という状況で介助犬候補という事になります。現在、介助犬を必要とする人は全国に1万5千人いると言われていますが、介助犬は74

中でどうしても避けられないのが同伴拒否です。これは全国的にも様々な場所で起こっていることで、補助犬法というものを知らないが故に拒否されてしまいがちなのです。法律上義務があるわけではなく、訓練犬も受け入れてもらえるような環境作りを進めてほしいと思います。

知念 福祉部長 石垣市は福祉のまちづくり条例を定め、バリアフリーに取り組んでおり、そのような街づくりが観光誘

頭と圧倒的に不足しています。介助犬は耳や目が不自由な方ではなく、手や足が不自由な方、神経や関節の病気のある方の日常生活を助けることが介助犬の目的となっています。

高柳 日本介助犬事務局長 手足に障がいのある方、歩けるけど非常に不安定な方や神経の難病を抱えている等の生活の中で様々なリスクのある方が介助犬のユーザーとして多いですね。物を落としたり拾えない、転倒して一人では起き上がれなかったというような経験を待つ人が、怖くて一人で出かけられない、家族も心配だから一人で外出させないというような事になると、引きこもりがちになってしまいます。そこで、介助犬は物も拾ってくれるし、引き出しや冷蔵庫を開けて必要なものを取ってきてくれたりします。何かあれば人も呼んできてく

客にも結び付くという事で力を入れていきます。今回、皆さんの思いを知る事ができたので、全面的に協力していきたい考えです。

新開氏 最後に一つ提案したいのですが、集合住宅の部屋の1割をバリアフリー化するなど補助犬と一緒に住める住居を整備することで、普通の世帯と障がいのある方がいる世帯が普通に自然に生活しているコミュニティがあたりこちらに増える社会が健全な社会だと思えますし、やさしい社会が広がっていくと思います。

中山市長 介助犬を身近に見る機会も初めてですし、介助犬の知識もあまり無い中で今日は多くの事を勉強させて頂きました。ぜひ、オメガ君にも試験に合格してもらって県内第1号の介助犬になってほしいと思います。そして、市民の多くが介助犬に理解を深めて、新開さんやオメガ君をまち全体でしっかりと受け入れられるような態勢を作っていくしたいと思います。



●補助犬の同伴を保障する場所
 国、地方自治体が管理する 公共施設、公共交通機関を指します。
 具体的には
 ・公共施設・・・スーパーマーケット百貨店、レストラン、映画館など/ ・公共交通機関・・・タクシー、鉄道など

●身体障害者補助犬法とは
 公共施設や公共交通機関などを利用する際に、補助犬の同伴の受け入れ、補助犬使用者の社会参加を保障する法律です。

